

宇治市植物公園あり方検討について

1 あり方検討の背景について

宇治市植物公園は、市制40周年の記念事業として平成2年に計画され、市民に都市緑化の必要性とその効果に対する正確な情報の提供、市民の都市緑化意識の高揚及び植栽知識の普及等を通して都市緑化の推進に資することを目的として、平成8年10月26日に開園した。

開園以来、市民の都市緑化意識の向上や憩いの空間・時間の提供をはじめとして大きな役割を果たすとともに、多くの入園者に親しまれている施設である。

しかしながら、入園料等の年間収入と、市が支出している指定管理料等の維持管理運営費との差額が大きい状況であり、これまで、来園者数の増加に向けた取組みやコストの縮減に努めてきたが、このままでは、大幅な収支改善を図ることは困難であると考えられる。それらに加えて、開園20年を超え、施設の老朽化が進行している状況から、近々に大規模改修が必要と考えられるため、宇治市公共施設等総合管理計画における「民間活力の導入推進を含めた効果的・効率的な管理運営による管理運営費の削減や使用料の見直し、利用者の増加に向けた取組を検討する」との今後の取組方針を踏まえる中で、植物公園のあり方について検討する必要が出てきた。

そこで、今般、「宇治市植物公園あり方検討委員会」を設置し、今後の植物公園のあり方について検討を行うこととした。

2 宇治市植物公園の現状について

資料5で詳細を記述しているが、次のような状況である。

・収支状況(金額は平成28年度)

支出・・・約2億円(指定管理料等) ※平成30年度予算:約1億7千9百万円

収入・・・約2千7百万円(入園料等)

差額・・・約1億7千3百万円

・年間来園者数

年間入園者目標・・・13万人

開園当初から8万人前後で推移。市委託の「源氏ゆめほたる事業」などの取組みにより、平成18年度は12万人を超えた。近年は10万人前後で推移。

最近は無料入園者の割合が増え、平成28年度では54.8%となった。

・管理運営

平成18年度から、指定管理者制度を採用し、公益財団法人宇治市公園公社が維持管理業務を行う。現在の指定管理期間は平成33年度まで。

・修繕費の状況

最近は、年々増加傾向にある。

3 その他

検討にあたっては、民間の自由な発想による幅広い事業アイデアや事業参入の意向等を把握し、実施事業の検討に役立てることを目的に、サウンディング型市場調査(概要については別紙参照)を実施する。

